

令和8年度 「公共」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
公共(東京書籍)		公共 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	前期1回	前期6回	

○ 「公共」の学習目標

- ・現代社会における諸課題について考察し、社会で活動するために必要な情報を適切・効果的に収集してまとめる能力を身につける。
- ・諸課題の解決に向けて、社会の事実を多面的・多角的に考察し、構想したことを議論する能力を養う。
- ・国民主権をになう公民としての自覚を養い、国際社会の一員として、平和と相互理解を考察できる態度を養う。

○ 学習内容の概要

第1部 「公共」のとびら

- (1)社会で生きる人間として、人間のあり方や民主主義の原理について学びます。
また、青年期の特徴について理解します。
- (2)近代政治の原理と民主主義について、政治の基本的なしくみと、日本国憲法とさまざまな法が、私たちの生活にどのように関わっているのか学びます。

第2部 自立した主体として社会に参画する私たち

- (1)民主政治に参加する際に必要な政治や法のしくみについて学びます。
- (2)経済のしくみと働くことの意義について学びます。また、さまざまな労働形態を具体的に学びます。
- (3)労働者の権利や雇用・労働問題を学び、それぞれの課題について考察します。
- (4)日本をとりまく国際情勢やグローバル化する国際経済について学びます。
- (5)国際平和について学び、平和な国際社会を築くために、日本に求められていること、日本人としてできることを学びます。

○ 公民科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

公共で学ぶ内容には、これから社会で生きていくうえで、必要不可欠な知識や技能がたくさんあります。ここで学んだことを基礎にして、社会で課題を見つけて考え続けていくことが自分の人生を豊かにし、長い目でみればよりよい社会を築いていくことにつながります。また、政治・経済分野で学ぶ内容は、新聞・テレビ・インターネット等で毎日のように報道されています。これらもよい学習の材料となるので、NHK高校講座とともに積極的に活用してください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	5	10	日	青年期、宗教、哲学	青年期の特徴や、人間としての在り方生き方を考察する。	第1回
2	5	27	水	民主政治 法の働き	政治のしくみや日本国憲法について学び、法と私たちの生活との関係について考察する。	第2回・第3回
3	6	7	日	経済、職業、労働	経済のしくみや職業選択、労働問題について学ぶ。	第4回・第5回
4	7	19	日	国際社会と平和主義	国際関係を理解し、平和な国際社会を築く道を考察する。	第6回
5	8	23	日	まとめ	「公共」についてまとめる。	

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2・3	6	17	水
締切日③	4・5	7	15	水
締切日④	6	8	26	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。 第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書の指定されたページをしっかりと読み理解できれば、答えが見つかり、レポートを完成させることができるようになっています。本文だけでなく、欄外の解説や、図・グラフなどもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出(E判定)になることがあります。
- ・レポートの最後に「感想・質問等」の欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	現代社会の諸課題を正確に把握し、活動するために資料から必要な情報を得て、効果的に活用することができる。
思考・判断・表現	諸課題の解決に向けて、事実を多面的・多角的に考察しながら公正に判断したり、表現したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	身につけた知識・技能をもとに、国民主権をになう公民として、課題を主体的に解決しようとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	○	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b)評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「倫理」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
倫理(東京書籍)			倫理 学習書(NHK出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	後期1回	後期6回	

○ 「公共」の学習目標

- ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、現代社会における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
- ・人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己を確立し、良識ある公民として必要な資質と能力を育成する。

○ 学習内容の概要

第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

- 第1章 人間とは何かという問いに関する思索や人間を特徴づける心の動きを学び、他者と共によりよく生きる自己の課題について考察する。
- 第2章 さまざまな思想家が示してきた人生観、倫理観、世界観を学び、人間はいかに生きるべきか、世界はどのようにあるべきか、といった問いについて思索する。
- 第3章 古代からの思想的伝統を踏まえて、近代以降の思想家が多様に展開してきた考え方を学ぶことによって、私たちが自明としている価値観や思想的課題を考察する。
- 第4章 日本人が歴史の中で受け継いできた人生観、自然観、宗教観を学び、そうした思想的伝統の中で自己形成した自分自身の在り方生き方に関する課題とグローバル化した現代の社会的状況を勘案して、主体的に自らの思索を深める。

第2編 現代の諸課題と倫理

自然・科学技術に関する課題や社会・文化に関する課題について探究学習する。

○ 公民科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

倫理とは、人の生き方、つまり人生について考えることです。よりよく生きるためにはどう在るべきか、自分に問いかける、そんな科目です。よく学習して、ぜひ自分の人生に生かしてください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	11	日	ガイダンス、人間の心の在り方	レポートの説明と、人間の特質と青年期の課題について学びます。	第1回
2	10	25	日	宗教と社会	世界宗教の特徴を学び、宗教が社会に及ぼした影響について考察します。	第2回
3	11	18	水	様々な人生観・倫理観・世界観	近代以降の思想家について学び、我々の価値基盤や思想的な課題に与えた影響について考察します。	第3回
4	11	29	日	国際社会に生きる日本人としての自覚	日本の思想家について学び、日本人が受け継いできた独自のものの見方や考え方について思索し、現代に生きる私たちの在り方生き方に関する課題を考察します。	第4・5回
5	12	20	日	現代の諸課題と倫理	グローバル化した現代における倫理的諸課題を考察し、主体的に探究する。	第6回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日⑤	1	10	29	木
締切日⑥	2・3	11	25	水
締切日⑦	4・5	12	23	水
締切日⑧	6	1	20	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。 第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書の指定されたページをしっかりと読み理解できれば、答えが見つかり、レポートを完成させることができるようになっています。本文だけでなく、欄外の解説や、図・グラフなどもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出(E判定)になることがあります。
- ・レポートの最後に「感想・質問等」の欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	概念や理論について理解し、倫理に関する語句が正確に用いられている。
思考・判断・表現	事実を基に多面的・多角的に考察し、自分の考えが的確に記述できている。 自分の構想が表現できている。
主体的に学習に取り組む態度	社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	○	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b)評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「政治・経済」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書（出版社）		教材等（学習書等）		
政治・経済（東京書籍）		政治・経済 学習書（NHK出版）		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5（水1）	2	前期1回	前期6回	

○ 「政治・経済」の学習目標

- （1）公民として物事に対して公正で主体的に判断する理念や理論を理解する。
- （2）現実社会の事実に目を向け、これからの国家のあり方を考える力を養う。
- （3）現代における諸問題を、解決しようとする態度を養う。

○ 学習内容の概要

- 第1編 現代日本の政治と経済を学習する。
- 第1章 現代の日本の政治について学習する。
- 第2章 現代日本の経済の仕組みを学習しながら、その問題点について考える。
- 第3章 現代日本の諸課題について学習する。
- 第2編 グローバル化する国際社会を学習する。
- 第1章 現代の国際政治について学習する。
- 第2章 現代の国際経済の仕組みを学習しながら、その問題点について考える。
- 第3章 国際社会の諸課題について学習する。

○ 公民科からのメッセージ・・・（学習の態度・心構え）

毎日のニュースを理解するためには、政治・経済の基礎的な知識は欠かせません。さらに「ボーダーレス社会」といわれるように、世界で起きていることが否応なしに私たちに関わってきます。社会の様々な出来事に関心を持ち、自分の意見を持てるようにしてもらいたいと思います。

◎ 学習計画

・スクーリング

※スクーリングの内容はあくまでも予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	5	10	日	民主政治の基本原則	民主政治・人権・政治体制といった政治の基本的な内容を学習する。	第1・2回
2	5	24	日	現代経済のしくみ	経済の基本的な仕組みを学習する。	第3回
3	6	21	日	日本経済の発展	戦後日本経済史を学習する。	第4回
4	7	5	日	福祉社会と日本経済の課題	福祉、労働など身近な問題について学習する。	第5回
5	8	26	水	国際社会の諸課題	国際社会の課題について学習する。	第6回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2・3	6	17	水
締切日③	4・5	7	15	水
締切日④	6	8	26	水

* 2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを提出することはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・文字は読みやすいように、丁寧に、濃く、はっきりと書いてください。
- ・教科書の指定されたページをしっかりと読み込めば、答えが見つかり、レポートを完成させることができるようになっていきます。本文だけでなく、欄外の解説や、図・グラフなどもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出（E判定）になることがあります。
- ・レポートの最後に「感想・質問等」の欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容（評価規準）

評価の観点および内容（評価規準）	
知識・技能	政治・経済に関する現代の諸課題について正しく理解できている。
思考・判断・表現	必要な情報を活用し、課題について多面的に考えて解答できている。
主体的に学習に取り組む態度	社会の形成者として、諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「日本国憲法と政治」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書（出版社）		教材等（学習書等）		
政治・経済（東京書籍）		政治・経済 学習書（NHK 出版）		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5（水1）	2	後期1回	後期6回	

○ 「日本国憲法と政治」の学習目標

- (1) 欽定憲法である大日本帝国憲法の特徴を理解した上で、日本国憲法の特徴について理解する。
- (2) 日本国憲法の条文に沿って三大基本原理や政治機構を理解し、その課題などについて考察する。
- (3) 政党政治や国際政治など、日本国憲法に載っていない政治的な内容についても理解を深める。
- (4) 政治に関心を持ち、現代社会・国際社会を生きていく上で不可欠な公民としての資質を養う。

○ 学習内容の概要

- (1) 日本国憲法について、大日本帝国憲法と対比させながら、その成立過程や特徴について理解する。
- (2) 日本国憲法の三大基本原理について、憲法の当該条文の内容に即して理解する。
- (3) 基本的人権の種類やそのあり方、新しい人権について考察する。
- (4) 平和主義や自衛隊について理解し、そのあり方について考察する。
- (5) 国会・内閣・裁判所・地方自治などの政治機構について、詳しく理解する。
- (6) 政党政治や選挙制度について理解し、その意義について考える。
- (7) 国際社会の特質について理解し、その問題点について考察する。

○ 公民科からのメッセージ・・・（学習の態度・心構え）

日本国憲法の三大基本原理にもある国民主権。この国民主権を行使する最大の方法が選挙で、政治に参加することです。政治に関心があってもなくても、社会は政治と連動し、諸課題は政治と関わっています。私たちの生活は、政治から切り離すことはできないのです。将来の日本を作るためには、国民の政治に参加する態度が必要です。日本国憲法と政治についての学習を通して政治に対する興味を深め、よりよい日本を作っていくください。

◎ 学習計画

・スクーリング

内容はあくまでも予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	18	日	大日本帝国憲法と日本国憲法	両憲法の成立過程や特徴を比較しながら理解する。	第1回
2	11	8	日	基本的人権の保障 平和主義	基本的人権と新しい人権の内容について理解する。 自衛隊や集団的自衛権について考察する。	第2回 第3回
3	12	2	水	日本の政治機構	日本の政治機構の特徴や関係性を学び、制度や仕組みを理解する。	第4回
4	12	13	日	政党政治 国際政治	政党政治の特徴を学び、選挙制度について考察する。国際政治の特徴や課題について考察する。	第5回 第6回
5	1	10	日	まとめ	これまでの学習内容をまとめる。	

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	10	29	木
締切日②	2・3	11	25	水
締切日③	4・5	12	23	水
締切日④	6	1	20	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・「政治・経済」の教科書を読み、読みやすいように丁寧に答えを書いてください。
- ・問題のやり残しがないように、しっかり確認をしてから提出してください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出（E判定）になることがあります。
- ・レポートの最後に、感想・質問等を書く欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容（評価規準）

評価の観点および内容（評価規準）	
知識・技能	政治に関する現代の諸課題について正しく理解できている。
思考・判断・表現	必要な情報を活用し、課題について多面的に考えて解答できる。
主体的に学習に取り組む態度	社会の形成者として、諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。